



オータムフェスタ(1・2年合同実習報告会)



WILLとともに語ろう「子ども主体の保育を実践していくために」  
(現任保育者卒業生対象オンライン研修会)

授業風景



学生食堂(マスク飲食)



焼き芋をやってみよう(保育支援プログラム)

CONTENTS

2021年度 聖句

「主において常に喜びなさい。  
重ねて言います。喜びなさい。」  
(フィリピの信徒への手紙第4章4節)



- 第3回認証評価を終えて ..... 2
- シリーズ研究室紹介④ ..... 3
- オータムフェスタ、TOPICS ..... 4
- 卒業生の活躍 ..... 5

## 第3回認証評価を終えて

副学長、認証評価連絡調整責任者（ALO） 教授 大下 聖治



認証評価とは、  
2004年度より  
導入された評価制  
度で、文部科学大  
臣の認証を受けた

認証評価機関が、大学、短期大学等における教育研究活動等の状況について、各認証評価機関が定める評価基準に基づいて調査と評価が行われる制度です。

認証評価は、文部科学大臣による設置認可後又は評価を受けた年度の翌年度から7年以内ごとに受けなければなりません。「自己点検・評価報告書」等に基づき、書面調査、及び訪問調査により、各評価員が基準Ⅰ「建学の精神と教育の効果」・基準Ⅱ「教育課程と学生支援」・基準Ⅲ「教育資源と財的資源」・基準Ⅳ「リーダーシップとガバナンス」より33区分について評価を行います。

本学では2007年度、及び2014年度に認証評価を受審しており、いずれも評価基準を充たしているとして、「適格」の認定を受けております。

そして、2021年度は3回目の受審年となり、「大学・短期大学基準協会」（以下、基準協会）による認証評価のための面接調査が9月6日、7日の2日間におこなわれて行われました。

認証評価受審までの動きについて、重要な部分を中心に振り返ってみたいと思

います。

2020年9月25日に、「2021年度短期大学認証評価評価校」の決定が通知され、それを受けて、9月30日に第1回「自己点検・評価委員会」を開催し、認証評価受審に向けた準備がスタートしました。委員会メンバーは、学長、事務局長をはじめ、各部長職、各ユニットリーダーで構成され、「短期大学評価基準の構造」、「自己点検・評価報告書（以下、報告書）」の構成と作成上の注意点、「訪問調査実施までの流れ」、及び「訪問調査当日スケジュールのモデル提示」について詳細に説明され、本番までのタイムスケジュールと準備について共有いたしました。

2021年5月31日には、2021年度短期大学認証評価の実施に係る評価チーム（4名）の決定と、COVID-19感染拡大防止の観点から2020年度に引き続き、訪問調査に代わってオンライン会議システム（Zoom）による調査となる旨の通知を受け、そこから評価チーム責任者との綿密な連絡・調整が始まりました。

学内では、2020年11月18日の学内運営協議会において、自己点検・評価報告書執筆要綱が承認されたことを受け、11月25日の教授会、及び11月26日の事務局リーダー会にて全学に周知され、報告書の原稿執筆が開始されました。

2021年4月26日にすべての原稿が整い、ALOと自己点検・評価報告書ワーキンググループによる校正を経て、5月19日に自己点検・評価委員会を開催し、校正した報告書の確認とともに、ALOが全教職員による報告書の点検、及び提出資料、備付資料の整理と確認を指示いたしました。その後、6月23日の学内運営協議会、教授会、リーダー会、職員会議で最終点検が行われ、報告書が完成いたしました。完成した報告書、及び提出資料は、6月25日に基準協会と評価チームに無事発送され、その後は、備付資料の整理と確認作業が行われていくこととなります。

8月18日に評価チーム・基準協会とのオンライン会議に係る接続確認テスト、及び打合せが行われ、会場設営、カメラ配置場所等の調整が行われました。

8月23日には、評価チームによる「事前確認・質問票」が到着し、全教職員協力の下、93項目にもわたる質問に対しての回答作業が行われ、8月28日には評価チームに「事前確認・質問票」回答版を送付することができました。そして、8月30日には学内リハーサルを行い、オンライン会議当日の流れと回答する際の注意点について確認を行いました。

9月6日の認証評価オンライン会議1日目は、午前中に基準Ⅰ・Ⅱに係る面接

調査が行われ、午後には、基準Ⅳに係る面接調査が行われました。本学からは、理事長職務の代理、監事、学長、事務局長、各部長、ユニットリーダー等、総勢21名が出席し会議に臨みました。

9月7日の2日目には、午前中に基準Ⅲに係る面接調査が行われ、午後には学生インタビュー、学内教育施設の視察（動画）が行われました。閉会にあたり、各評価員の方から講評を受け、本学の教育に対する取組、学生支援、健全な大学経営と運営、学生インタビューにおける学生たちの態度、また、今回の認証評価受審に向けた本学の準備と姿勢等が高く評価して頂きました。全教職員の努力が報われた瞬間でもありました。

認証評価結果の内示については、この原稿を書いている時点ではまだ行われておりませんが、「事前確認・質問票」に対する回答作業を進めていく中で、現在の現状を改めて確認すると同時に、より深く省察する機会を得られました。

また、オンライン会議当日の質疑応答において、貴重なアドバイスも数多く頂き、全学を挙げて、評価チームの方々から頂いた御指摘、御助言を活かして、この和泉短期大学の更なる発展に繋がってきたいと考えております。



## シリーズ研究室紹介④

准教授 八代 陽子

私の専門は「保育学」です。ただ、私の中では「保育は人間学」だと捉えております。私は、以前看護師という仕事をする中で、人生の終末期に立ち会わせていただく経験をしました。そのような経験の中で「その人らしく生きる」と、それを支える自分の在り方とは何か」ということが自然と私のテーマになっていました。

その後、「保育学」を学び始める中で、ある特別支援学校の子どもたちと、素敵な保育者たちと出会うことができました。そこでは、「子どもの思いに寄り添うこと」、「子どもの視点から世界を見ること」、「子どもも大人も対等な関係であること」が実践され、一人ひ



とり（子どもも大人も）が影響しあい、織りなし創りだされる豊かな世界が展開されていました。この豊かな世界はその瞬間そこにいる人や状況によって創り出されるため、二度と再現されることのない一回性という尊いものです。その豊かな世界で「子どもだけでなく、大人も共に育ちあう」ことができるのが保育の現場だと感じています。

「子どもの思いに寄り添うこと」、「子どもの視点から世界を見ること」、「子どもも大人も対等な関係であること」は、障がいの有無にかかわらず、すべての子どもにおいても変わりなく重要なものです。もっと言えば、子どもだけではなく、大人にとっても同じように重要なことです。これが冒頭で触れた「保育は人間学」だととらえる所以です。そのため、私は、「保育者や子どもから見える世界」に視点を当てた、「人と人とのかわり」に関する研究を進めています。「人と人が育ちあう姿」「人と人によって織りなされる豊かな保育の営み」を明らかにすることで、微力ではありますが保育の発展に貢献していきたいと思えます。

## 2021年度 表彰者

## 眞鍋記念奨学金(前期)

児童福祉学科1年 齋藤 美佳  
(県立横浜修修館高等学校出身)



和泉でのこれまでの学びは、人はどのようにあるべきなのか、自分はどうのように生きていきたいのかなど、今まであやふやだった自分を知る大きなきっかけとなりました。様々な価値観を与えてくださる先生方や、志を同じくする友人に囲まれ学ぶ事のできるこの環境に感謝し、これからも精進していきたいと思えます。

児童福祉学科1年 中畑 望華  
(県立上溝南高等学校出身)



入学してからの和泉の生活には、これまでになく新しい学びや経験がたくさんありました。日々刺激を受けることばかりで、後期がとてもしみずけです。これからも、自分の夢を実現させるために、努力を惜みず、一生懸命頑張ります。また、支えてくださる家族や先生方、友達への感謝を忘れずに生活していこうと思えます。

専攻科介護福祉専攻 陽田千賀子  
(都立町田総合高等学校出身)



新型コロナウイルスの影響がある中でも、学生が十分に学ぶことができる環境を作ってください先生方にはと

ても感謝しています。専攻科に入学し、介護を学ぶことによって、より福祉の大切さを実感しました。後期からは、介護福祉士国家試験に向けて一層学業に励んで参ります。

児童福祉学科2年 角井 風香  
(県立相模原青陵高等学校出身)



この度はこのような素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。2年生前期は事例を多く扱った授業やより実践的な授業があったように感じます。先生方や友達にたくさん支えていただきながらよりよい学びを得ることができました。残りの学生生活も楽しみながら精一杯学びを深めていきたいと考えています。

児童福祉学科2年 山中 麻以  
(文化学園大学杉並高等学校出身)



コロナ禍でも分散授業という形で充実した学びを得ることができ、和泉短大の先生方には大変感謝しております。また、実習へ行く度に授業で学んだことがどれほど大事なことなのかを感じることができ、より一層保育の学びを深めることができましたと実感しています。残り限られた学校生活の中で常に振り返りを大切にしながら保育士を目指していきます。

## オータムフェスタ ～学びの収穫祭～

学生部長 准教授 山本 美貴子

コロナ禍により開催中止となった「いずみ祭」に替え、昨秋に続き、グループごとに2日間に分けて「オータムフェスタ～学びの収穫祭～」を行いました。オンラインでの学長の温かい開会の言葉から始まった深まりゆく秋の一日、和泉に活気ある学生の声が響き、後援会・保証人会・同窓会・校友会から学生全員に贈られた「オータムギフト券」が、楽しい一日に華を添えてくれました。心より感謝申し上げます。

2年生は当日に向けて、これまでの全実習から得た学びの果実を「初めての保育所実習に準備したこと」「責任実習までの自分のストーリー」「翌日の保育に活きる日誌の書き方」「嬉しかった子どもとのエピソード」「年齢に応じた絵本・遊び・活動を選ぶコツ」等、各自の実習体験に基づいた魅力的なテーマに設定、自分なりに創意工夫して見事な内容にまとめ、グループ毎に話し合った様々な発表形態(1対1で順に・少人数グループ・全体で発表、PCを利用等)で1年生に存分に伝えてくれました。4回の実習に寄り添いご指導された先生方、各教室を廻った私も、2年生一人ひとりの個性が発揮され成長が薫り立つような力強い発表の姿に心を動かされ、視線を交わしてほろりとなりました。

終了後、学生にインタビューすると「初めての实習を応援する気持ちで発表を準備した」「一生懸命聞いてくれてすごく嬉しかった」「私が見たことが参考になったら嬉しい」「実習っていいよって不安だけじゃない楽しみな気持ちを持たせてあげたい」等、2年生の自覚・1年生の成長を願う思い・伝えることのやりがい等が熱く語られました。

また、「実習の記録」「指導案」「作った教材」「実習先の先生からのコメント」「子どもからのお手紙」等、ホカホカと臨場感あふれる資料に触れる機会を得た1年生からは、「2年生すごい!」「こんなに教えてもらえると思ってなかった」「毎日一緒に授業をやってほしい」「私もああいう2年生になりたい」という感嘆の声や、「いよいよ自分達の番だと思った!」と緊張と期待が混ざる心境が聞かれて、2年生から「実習の学びの果実」のバトンを受け取ってくれたと感じました。

2年生、和泉短大の秋に収穫感謝の時をありがとうございました! 1年生、一緒にがんばりましょう!



## TOPICS

### 2021年度神奈川県家庭部会 夏季講習会開催

2021年8月4日(水)、2021年度神奈川県高等学校教科研究会 家庭部会夏季講習会が和泉短期大学301教室で開催され、神奈川県内の高校家庭科の先生27名が参加されました。

授業研究は「絵本と読み語り」星早織助教、「最近の保育・福祉の動向」については鈴木敏彦教授による講習を行いました。質疑応答では、保育業界の勤続年数や給与、待遇の現状、また男性保育者の就職状況など、生徒進路指導の場面で一番気になるという質問を頂きました。

アンケートでは、「絵本の奥深さを改めて認識しました。」「絵本の種類や読み語りをするときのポイントがよくわかりました。」「保育の授業や生徒の進路指導において役立つ情報を知ることができました。」「なかなか聞くことができない講義だったので有意義でした。」と多くの回答を頂きました。

和泉短期大学では、高大接続授業を通じて、保育・福祉の専門的知見の提供、高校での授業の活性化、生徒さんの上級学校での学びのイメージの具体化等に寄与したいと考えています。



### 1号館6教室の照明器具をLED照明に変更

1号館 小教室(101教室、203教室、210教室、303教室、304教室、305教室)の照明器具を消費電力が少なく環境にやさしいLED照明器具(グリーン購入法適合商品)に取替えました。(天井照明112台、黒板灯12台、合計6室124台)教室内が明るくなったことで学生の学習力がさらにUPしていくと思われます。

また照明設備取替更新にあたり相模原市の省エネアドバイザーの助言・指導を受け、相模原市条例に規定する「地球温暖化対策計画書」を相模原市に提出を行いました。「令和3年度相模原市 中小規模事業省エネルギー設備等導入支援事業」に選定され、相模原市より費用の1/3が補助金として交付される決定通知を受けました。

2022年度は8教室、天井照明232台、黒板灯15台、合計247台を取替更新する計画です。本学では電気を大切に使う、CO<sub>2</sub>削減など地球環境に取り組んでいます。



### 2021年度 第9回 保証人会を開催しました

2021年10月30日(土)に第9回保証人会を開催し、1年生32名、2年生15名合計47名の保証人の方々にご出席いただきました。

当日は、「学年ごとの全体会」と「グループアドバイザーとの個別面談」を行いました。

1年生は学長挨拶後、実習サポートセンター矢野由佳子センター長が「初めての実習へ 日常生活のできる『10のこと』実習で育つ和泉生」を講演。2年生は副学長挨拶後、山本美貴子学生部長が「就職活動と就職支援について」を講演しました。保証人の皆様に本学の実習、就職活動についてご理解を深めていただく機会となり、またご家庭での精神的なサポートも実習、就活では大変重要であることをお伝えすることもできました。

個別面談は事前予約希望制で、学校生活、成績、進路について各グループアドバイザーが対応しました。また図書館をはじめ自由に学内を見学いただきました。

コロナ禍またお忙しい中、ご出席くださいました保証人の皆様、ありがとうございました。今後も本学へのご理解、ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。





## 卒業生の活躍 (第24回)

社会福祉法人 愛の森 愛の森学園 支援課長

(二〇〇六年三月 卒業生) 大川 矩子さん

障がいのある方と接することに違和感のなかった子ども時代、仕事として意識するきっかけになったのは、中学生の時の夏休みのボランティアでした。当時は「私がボランティアをするんだ！」と意気込んだ記憶があります。が、実際は一緒にビーズ作品を作ったりととにかく楽しい時間を過ごし、中学生を受け入れてくれた施設に感謝の思いです。

和泉短期大学に入っても知的障がいの方に関わりたいたいという思いが強くあり、児童福祉コースに進みました。障害福祉の成り立ちの学びを経て、その後利用者さんのご家族と接した時に、言葉の奥にある思いを少しでも理解す



ることが出来ました。

和泉を卒業すると同時に愛の森学園に入職しましたが、実習でも入所施設の経験のなかった私は初め、驚きと戸惑いの連続でした。「今は利用者さんに試されている。認められなくては！」と、実際は利用者さんから教えられることばかりのなかで夢中に過ごし、15年という時が経っています。与えられる責任も少しずつ増していきませんが、支援の仕事は今でも新しい発見の毎日ですし、それ以外の仕事は、まだまだ学びの日々です。喜怒哀楽あるけれど、利用者さんから向けられる信頼のまなざしがこの仕事に私を繋ぎ止める、やる気の源です。

そして15年経った今でも、和泉で出来た友達はとても大切な仲間です。たった2年間ではありますが全力で取り組んだ、とても濃密な2年間でした。卒業してからはそれぞれの道を歩んでいます。飾らない自分を知っている人たちがいることで時に立ち返り、自分自身を冷静にみつめることが出来ます。

これから先はどんな出会いや体験が待っているのか、楽しんで経験を重ねていきたいと思っています。

## 社会福祉法人さがみ愛育会の共催で

### ワクチン接種を実施

和泉短期大学は、社会福祉法人さがみ愛育会(小林祐子理事長)のご協力により、同施設利用者の方々・ご家族、本学学生、教職員・家族、青葉2丁目自治会の方々が職域接種をすることが出来ました。2回目接種時には本村相模原市長に視察いただきました。

第1回 2021年9月1日(水)・2日(木)

第2回 2021年9月29日(水)・30日(木)

接種場所 和泉短期大学4号館

アリーナ、リトミック室

新型コロナウイルス感染症拡大時に、本学は文部科学省の拠点接種等を検討し、申請する方向を進めていきましたが、ワクチン不足等で本学独自の実施を見送ることにしました。

一方、神奈川県内の保育者養成校の学生及び教職員対象のワクチン接種、東京都と3大学が連携したワクチン接種の機会を得ることができました。

## 人事

退職(2021年8月31日付)

天野 莉那 広報渉外ユニット

## 表彰

キリスト教保育連盟 永年勤続表彰

栗林 直樹 庶務ユニット(施設担当)

キリスト教保育連盟 神奈川部会 永年勤続表彰

佐藤 守男 学長・教授 土橋 正文 事務局長

武石 宣子 特任教授 井狩 芳子 教授

今泉 治子 庶務ユニット主任(庶務担当)

## 訃報

故 長谷川 和夫 先生(2021年11月13日)  
学校法人 クラーク学園 元評議員  
1982年～1984年

聖マリアンナ医科大学名誉教授  
日本で最初の和泉老人福祉専門学校設立に当たり、日本では高齢者のケアワーカーの資格が制定されていない中でカリキュラム編成にご尽力をいただきました。

故 松浦 勝治 氏

松浦浩樹 教務部長 教授  
御尊父(2021年8月12日)

故 田畑 茂子 氏

高橋明紀 学術情報ユニット ICT支援者  
御母(2021年9月6日)  
主による平安をお祈りいたします。



今後も、学生、教職員が安心して学び、働くことができるように感染防止に努めて参ります。  
事務局長 土橋 正文

## 2021年度 和泉短期大学「愛のいずみ基金奨学金」(給付型奨学金)のお願い

学校法人和泉短期大学の原点であるララ物資の精神を引き継ぐために  
本学教職員・法人関係者の方々からの寄付を中心とした本学独自の給付  
型奨学金基金を2018年度より設立しました。

現在の社会・経済環境が甚だ厳しい状況にあります但し本学独自の愛の  
いずみ奨学金基金の趣旨をご理解のうえ、和泉短期大学の学生の支援充  
実のため、一人でも多くの方々のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し  
上げます。

**募金目標金額** 3,000,000円  
**募金募集期間** 2021年6月～2022年3月(第4期)  
**募金金額** 1口5,000円  
**払込方法** 郵便振替口座  
口座番号 00280-6-105705  
口座名 学校法人 和泉短期大学  
愛のいずみ基金奨学金

### 所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額  
に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受  
けることができます。

### 法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事  
業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができ  
ます。詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 和泉短期大学 庶務ユニット(経理担当)  
042-754-1133

寄付者一覧(敬称略) <2021年8月1日～2021年11月30日>

石川 佳代/上田めぐみ/大塚真光子/岡田 京子/小椋 郊一/小澤 博道/川井 俊幸/桑山 和子/後藤 奈美/塩谷 香/白井 治子/  
曾根真理子/高浦 悦子/戸田 美穂/仲澤 眞/中野 陽子/中畑 宏幸/西田 伸江/平塚 豊/福嶋美佐子/古川 幸子/吉永 直子/  
森 三樹/山口 淳子/同窓会いずみ/匿名希望(14件) 以上39件 551,000円

## 2021年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年4月東京都世田谷区中町に「バット博  
士記念養成所」を開設し、同年5月「現任訓練講習会」を開催したことに始  
まります。1960年、その現任訓練機関が「玉川保育専門学校」となり、  
1965年に「和泉短期大学」が設立され、2021年5月に学校法人和泉短期  
大学は創立65年を迎えました。

学校法人和泉短期大学を卒業された卒業生は19,623名の方々の働きや努  
力と活躍により発展成長したものと深く感謝申し上げる次第であります。

和泉短期大学は、教育の充実を図り、学修環境整備、施設設備の維持整  
備を目的に2021年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。

みなさまには出費多難な折とは存じますが、ご理解とご協力を賜りま  
すようお願い申し上げます。

- 募金対象事業**
- 1号館 教室ブラインド交換工事
  - 1号館 教室照明器具 LED電球交換工事
  - 1号館 小教室 ウイルス除去防臭装置設置工事

寄付者一覧(敬称略) <2021年8月1日～2021年11月30日>

石川 佳代/上田めぐみ/白井智恵子/岡田 京子/小椋 郊一/小澤 博道/後藤 奈美/佐々木美佐子/曾根真理子/高浦 悦子/仲澤 眞/  
中島 弘光/中野 陽子/中畑 宏幸/西田 伸江/平塚 豊/古川 幸子/吉永 直子/森 三樹/山口 淳子/匿名希望(17件) 以上37件 401,000円

**募金目標金額** 10,000,000円  
**募金募集期間** 2021年6月1日～2022年3月31日(第10期)  
**募金金額** 1 個人 1口 5,000円  
2 法人 1口 10,000円

### 所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額  
に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受  
けることができます。

### 法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事  
業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。  
詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 和泉短期大学 庶務ユニット(経理担当)  
042-754-1133

## 和泉短期大学同窓会いずみから長机、パイプ椅子が寄贈されました

2021年10月27日(水)和泉短期大学同窓会いずみから長机20台、パイ  
プ椅子24脚が寄贈され、「奉献式」を行いました。

土橋正文事務局長の司会、坂井悠佳チャプレンの司式により、讚美歌  
演奏、聖書朗読、祈禱が行われ、大下聖治副学長から、「200教室と4号  
館アリーナ・リトミック室で活用させていただきます」との感謝の言葉が  
ありました。同窓会いずみを代表して川井超彦副会長から挨拶をしてい  
ただきました。



## 相模原市オレンジリボン・キャンペーンに協力

児童虐待防止推進月間(11月)に先立ち、2021年10月26日(火)に本村賢太  
郎相模原市長を訪問し、学生が作った児童虐待防止のシンボルマークのオ  
レンジリボン1,000個を、2年の鎌田圭翔さんと川崎萌菜さんが本村市長に手渡  
しました。

相模原市に寄付されたオレンジリボンは、相模原市内の児童虐待通告(相談)  
窓口のある各区の子育てセンターや児童相談所他に配架されます。

和泉短期大学は、「オレンジリボン運動」(児童虐待防止推進活動運動)に賛  
同しており、2009年より相模原市と協力し、児童虐待防止に向けた活動を全  
学をあげて支援・推進しています。

2009年から毎年、11月の児童虐待防止推進月間に、本学学生が作ったオ  
レンジリボンを相模原市子ども・若者未来局、相模原市民生児童委員協議会、相模原市児童虐待・いじめ防止連絡会、市内児童福祉施設の方々と協力  
して街頭配布していました。本年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、街頭啓発活動は中止になっています。



相模原市・本村相模原市長へ  
オレンジリボンを手渡した様子



学生によるオレンジリボン作成の様子